

幼 兒 教 育

第 十 九 卷 第 二 十 號
大 正 八 年 十 二 月 一 日 發 行

目 次

生活か教育か……………倉橋惣三

園外保育日誌……………京都市日彰幼稚園

幼児教育と繪畫……………米山えん

大阪市立兒童相談所を訪ふ(二)……………一會員

大會所感……………出席者の一人

雜 報

ヘッベル「わが幼時」(四)……………艶子譯

日 本 幼 稚 園 協 會

會 告

○會費御拂ひ込みの節は御名前前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊 郵稅共金拾六錢 六冊前金郵稅共九拾錢
拾二冊同金壹圓八拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六)

大正八年十一月廿七日印刷納本
大正八年十二月一日發行

編輯兼發行者 小 高 覽
東京市日本橋區岩附町一番地

印刷者 福 山 福 太 郎
東京市牛込區西五軒町五二番地

印刷所 福 山 印刷製本所
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
發行所 日本幼稚園協會

幼 兒 教 育

第 十 九 卷 第 二 十 號

大 正 八 年 十 二 月 一 日 發 行

お 暇 乞 ひ

今回文部省から教育學及び心理學研究の爲滿二ケ年間歐米へ留學を命ぜられ、今月十三日横濱解纜のコレヤ丸で出發致します。一々お暇乞ひ申上ぐべきで御座いますが何彼と多忙致して居りますので略儀ながら誌上で失禮いたします。尙ほ不在中は自然御無沙汰に打過ぎることゝ存じますが、時折りの消息は此の誌上でおたより致し度いと存じて居りますから、それでお宥しを願つて置きます。

二ケ年の不在の間、日本幼稚園協會の發展と會員諸君の御健在とを切に祈つて已みません

十 二 月

倉 橋 惣 三

生活か教育か

|| 第二回全國幼稚園關係者大會に於ける講演大要 ||

倉橋 惣 三

生活と教育と

教育と云ふ言葉は、現今では一種固定的の内容を有する様になつた。彼處に教育がある、此處は教育の場所である、この人は教育の人である、など、云ふ。即ち教育の對象となるものの固定性が、餘程しつかりして來た様に思はれる。

然し、我々が今一步思ひをかの原始の時代に馳せて考へて見たらどうであらうか。果して教育と云ふ事は、その初めから固定的の意味をもつて居つたであらうか、或時は父親はその息子を連れて曠野に獵に出る。父は自ら食ふためにまた家族を養ふために野に出るのである。この時、その愛する子供は、その傍にあつて、自分の父が、鳥や、獸を熟練したる方法でとらへるのを感嘆して見てゐる。次第に長ずれば、子も亦、父を助けて自ら獵せん事を希ふ。この時、父はその子に適當な指導を與へるのである。

又、娘は家にあつて野菜を蒐め之を料理する母を手傳つてゐる。一つ、一つ、實際に「かくせよ」と教へられる。かゝる場合に、父にせよ母にせよ、「自分は今、我子に教育をしてゐるのである」と云ふ意識は勿論もつてゐない。試みに現代人が彼等の傍に立つて、「お前は今子供に對して何をしてゐたか」と問ふならば、「鳥をとる事を教へてゐた。」「野菜を煮る事を教へてゐた。」とは答へやうが、「今教育をしてゐました」とは云はないであらう。即ち、生活そのものが教育であつて、生活して行くと云ふその事の中に教育は行はれて居つた。しかるに、人間生活の進むにつれて、事實上、生活から教育を分離してしまふ事となつた。何故實生活から教育を分たねばならなくなつたかと云ふに私はかう思ふ。

(一)人間の生活は、原始時代の様に簡單でなくなつた、自然的の生活をして居る事が出来なくなつた複雑になつて行くその實生活の中にあつて、父も母もその子の教育のために費し得る時と、又、努力とに不足を感じ始めて來た。そこで、自然の結果として、かの工業の上に分業が行はれる如く、勢力經濟の上から、此處に生活の中から教育を分離してしま

ふ事になつた。

(二)有るがまゝの状態で、有るがまゝに生活して行く人類は、時を追ふて進歩して來た。其處で、父母は其の子供の生活すべき來るべき將來を豫想して之が準備を興へ様と欲し、しかも最少の努力で、最大の効果をさめ様と思ふ。其處で、勢ひ、複雑にして多忙なる實生活から、教育を分離してしまはねばならぬ事となつた。

生活から分離された教育と

は如何なるものか

扱、かくのごとくにして多忙であるために、複雑であるために、勢力經濟の上から己むを得ず分離した其教育は果して如何なる性質を有するものかと云へば、即ち、

(一)將來のための準備と云ふ意味で、實際の複雑なる生活そのまゝでは到底出來ないために之の生活から分れたものであるから、慥かに普通の生活よりも簡單になつてゐる。

(二)元來、準備と云ふ事のためには、これを最も經濟的にするのは、一々の具體的の生活の事實を

たどらずに、其中に行はるゝと考へられる所の通則を捉へて、之に據るべきである。この法則こそ、人間の有する賢き財産である。しかも法則と云ふものは抽象的の性質を帯びて居るものであるから、即ち、生活から分離された教育と云ふものは、又抽象性を有するわけである。

次に、教育は、今日の状態で見ると、其要素となつてゐるものは、人、場所、方法の三つである。實生活の複雑から、先づ、人を分離して、教育者と云ふ特別なるものをつくつた。實に生活の簡單なる原始時代には、あらゆる人は皆教育者であり得たのであるが、次に、又、教育の場所と云ふものが出來た。嘗つては、其處の森も、彼處の河も、これ皆教育の場所であつたのが、分離された場所は此處に學校組織と云ふ状態で顯著にあらはれて來た。此處に於て教育を行ふ専門家が、教育を行ふ特別の場所で、全力をあげて生活から教育を分離する事となつた果して

其結果は如何

になつたか。生活から分離された教育は、當然帶ぶ

る色彩たる、簡單と抽象とに加ふるに、教育者の努力と教育の場所の越絶とを以てして、人は知らずして教育の中に生れ、その中に人となり、實生活からます／＼遠かつて、簡單化せられ、抽象化せられたものだけを受取つて行く様になつた。かくて、今や漸く、教育が如何に生活から懸け離れてゐるかに目覺め、之が堪えざる苦痛となるに至つた。昔から今日迄、永い間のあらゆる方面の努力の結果、つひに生活から分離せられた教育は、漸く其の故郷たる根本の生活から迷ひ出てしまつた。「教育を生活にかへすべし。」「教育と生活との密接關係をつくる方法を講じなければならぬ。」と云ふ聲さへ聞えて來た、生活にかへせと云ふ呼びには、自ら二つの意味があらう。即ち

(1) 社會生活そのものからすぐに教育しやうとする考へ方で、實際、教育が生活から分離せられた當時には、「お安い御用」と云ふ譯で、教育を特別な人が特別な場所でする事をごく手輕に引きうけた。分離するがために一生懸命に努力したが、扱、生活を離れての教育は行きつまつてしまつたので、そこで、我々だけにするわけには行かぬ、社會一般の負擔に

せねばならぬ。」と云ふ事になつた。此處に社會教育と云ひ通俗教育と云ふ事などが稱へられて來る様になつた。

(2) 今一つの考へ方は學校そのものの中に實生活を取り入れて行かうとする事である。謂ゆる、生活本位、生産主義の教育論であつて、社會と學校と、社會と教育と、互に浸入浸出作用が行はれなければならぬと説くのである。是迄は社會から遠からう、生活からはなれ様と、高く厚く築きあげてゐた教育の塀が、今や低く薄くなつて來て、「まかせた」「まかせられた」と互にはなれてゐた教育と社會とが互に相接近して來る事になつた。

しかし、この接近、この融合は、果して何處迄實現せられるであらう。分離に要した時期の永かつただけ、努力の大きかつただけ、生活と教育とが自然のまゝの美はしい融合にあつた昔のその大本にかへるためには實に大英斷を要する。しかも生活の根源を先づとらへなければならぬ。と云ふ。

生活と云ふ言葉は何を意味するか

と云ふ事を慎重に考へなければならぬ。

學校の中に生活を取り入れると云へば、直ちに普通教育の中に、例へば大工、鍛冶屋の部を設けて實生活を練習させる事かの様考へる人もあらう、しかし生活を取り入れるとは例へば職工を學校の中に入れよ生活の形式をたゞ陳列的に入れよ、と云ふ事ではない、もしも、大工そのもの、鍛冶屋そのものを學校の中に入れて、それがよい教育ならば、何を苦んで我々の祖先は生活から教育を分離せんとして血の汗を流して努力しつゞけたのであるが。複雑になり行く社會生活は、到底教育を同時に行き事不可能なる事を経験したればこそ、より簡單化せられ、より抽象化せられしものを、次代の後繼者に與へんと、經濟的、分業的の立場から分離を敢行し來つたのではないか。

しかし、今や我々は實際、生活を全く離れて教育はなし得ないと云ふ事に氣がついて來た。是迄の教育が何が飽きたらぬ點かと云へば、それは即ち實生活の具體なるに比して、教育があまりに抽象的であると云ふ事である。この具體と云ひ、抽象と云ふのは、これは心理的考察の上から、形式的或は作業

的——生活の形式、作業即ち職業をそのまゝあらはすのを具體なりとするのとは意味が違ふ——の上で云ふのではない。

しからば、すべての生活に通ずる特性は何であるか私は自分一個の考へを以てすればこれを二つとする、

(一)必要と云ふ事に由つて生活する事……これこそ實に生活の生活たる所以であると私は思ふ。必要は之を主觀的に考へれば即ち目的である。而して自身自身の目的のために營む生活こそ、之即ち具體的の生活である。

今日の教育は、準備と經濟の立脚點から出發してゐるために、現在必要を感じぬものにも、何時かは役に立つからと云ふ譯で與へるのであつて、被教育者にとつては必要がおこらぬ、従つて目的を持たぬのである、勿論準備は大切な事である、しかし準備のみが生活ではない、眞の生活を行ふ第一の動力は實に必要を自ら感じ、従つて自ら目的を有する所に

ある。

それ故、教育は、よし準備をするとしても、其の根源となるべきものを與へるものでなければなら

ぬ。

(二)人間は一人では居られない、人類の生活は必ず社會的の意味を有するものである。社會的とは何を云ふか、群衆必ずしも社會的ではない、形は社會的に似て之はその實、最も非社會的のものである。何とならば、たゞ多數の人が集まつたと云ふ丈けてその一人一人は、各々勝手な目的を有し、勝手に考へて互の間の相交渉する事がなければ、社會的とは云はれぬ。

眞の社會的とは、その集まれる人、一人一人が相互に認識し相互に助け合ひ其の中の一人と雖も多數の壓力の中におしつぶされる事がなく、一團となつて生活して行く事であつて、實に孤獨及單なる集合の正反體である。それ故に、隣りあれども無きが如く、人と人と相對して何等關する所を知らず、人の中にありて人を感ぜず、相觸るゝ嬉しさも味ひ得ずたゞ自分を高くし、又は、徒らに卑下して、淋しい感じを起してゐる様な人は、之社會的に生活出來ぬ人で、私はかゝる種類の人々を消極的の暴若無盡と云ひたいのである。

果して、我々は相互的關係に於て、日常生活を送

るとするならば、教育の中に生活を取り入れよと云ふその生活とは、上に述べた様にあらゆる生活に共通なるこの二つの特性を意味すると思ふ。

私は、先に、教育の三要素として、人、場所、方法をあげた。そして、人を分離し、場所を分離したと云つた、今一つの方法はどうであるかと云へば、實に

教育の方法は分離する必要はない

のである。複雑になり行く生活は、教育意識のない母親に子供の教育を委せて置く事は出來なくなつたのは事實で、必要上己むを得ず人と場所とは分離せられた。これは勿論承認すべき事であるが、しかし其方法に於ては、何も生活以外の事をしなければ生活の準備が出來ないと云ふ譯はあるまいと思ふ。教育者と云ふ特別な人が、特別な場所で行ふ教育の其方法は、子供の年令に應じた生活の必要の系列と、又、適當したる相互生活の系列であるべきで、所謂、必要はないが稽古をすると云ふ事はいけなない。

繰りかへして云へば、教育が生活から分離したの

は、餘りに生活が複雑で、子供の年齢にあはない多くの必要が一時に存在する様になつたためである。それで、「教育」と云ふ名詞は使ひたくない、固定的の意味をもつものとせず、實生活を教育的にする、と云ふ意味で用ふべきである。

この、必要及相互的生活の適當なる系列を、年齢に應じて與へると云ふ事は、幼稚園に於て最もよく行はれるのである。どうすれば、相當の複雑性を持つてゐる子供達が、その生活を必要に應じ、又相互的に營み得るかは、之實に保母その人の立案的努力に待つ外の外はない。保母の任務は一つに此處にある、而して保母自身も亦子供の生活の中にはいつて、機會を捉へて教育的の發動をなすべきである。終りに

將來の幼稚園如何

と云ふ事について之言しやう。これは論理的に考へて二つの方面に行き得やう。即ち、

(一)我國の幼稚園は、インファントスクールシステムの中に入れて、事實上、學校と云ふものと今一層組織的に結びつけて、即ち學校教育が此處まで延長されたものとし、所謂、早教育的の考へ方をするか

(二)或は學校系統を結びつけないとするならば、寧ろ、學校と遊園の合の子の様な、或は家庭と學校との仲介物の様な不徹底なものにして置かないで、全然學校と切り離れて、幼稚園を俱樂部的のものにする事である。學校とは違ふと云ひながら、事實學校の眞似をする様な事をしないで、俱樂部組織にし保母も亦俱樂部の一員となつて教育的指導を與へる様にするか。

この二つの方面の何れかに行くのであると思ふ。要するに、我々は、自ら幼稚園教育に携はるからと云つて、幼稚園教育の上に、眞理と認めたる事を、これは、幼稚園だけに於ける眞理、と考へてはならない。フレイベルは、實に人類全體に行ひ得る原理を偶々幼稚園に行つたにすぎぬので、眞理は決して幼稚園に於てのみではない。それ故我々は常に自ら教育全般に携はつてゐると云ふ考へがなくてはならぬ。

(未校閱) 文責在筆記者)

園外保育日誌

大正八年十月二十七日

京都市日彰幼稚園

附言

本園は幼児の屋外遊戯場の特設なく、學校と共用なるが故に、自然屋内に於て多く遊ぶことになる。其の斯を調和するためには園外保育を度々行ふ。一二三六七月の間は出ることは極めて少いが、其の他の季節は、殆ど、一週に平均二回位は出て、而して自然界に近づけるを常とす。辨當持は年二回位にして其の外は午前中に行つて歸ることにして居る。

目的 豆の蒔種をかねての遠足。

場所 平野衣笠山の麓。

幼児數 八十五名、保姆六名

用意 前日より水につけ用意せし豆、そら豆三合

豌豆三合、その他、急求療用の品々、少々

午前九時出門の豫定であつた。兒供は、八時前後に早や三々五々集ひて、保姆の顔を見て、「ち早う」とんで来る。辨當は背におひ、お菓子には腰にぶら下げて、勇んで居る。時刻迄にはすつかり揃つたので列を整へて出門する。烏丸蛸薬師に至り、豫定通り九時三十分電車の都合ついたので、直ちに乘

車す。例の如く車を買切にする。子供は練れたことして、一二分間に皆乗り終る。半は腰掛の上に昇らせて立たせ、半は腰掛させる。種々談笑の内に千本今出川に着く。下車して、列をそろへて、北へと進む。約五六町にて、北野神社に至る。一同列んで禮拜す。境内を横ぎりて、北門を出て、此度は平野神社をも伏し拜み、社内に飼養する一匹の大猿に近寄り、お菓子など與へたけれども食べてくれぬので、本意なさそうに、尙ほも、種々の言葉をあびせても平氣なのに興うすく、そこを辭して、又も北へと進む。町はづれに來るといへるの畑物を見ては、「これ何〜」と問を連發する。「あゝあそこに、大根が生えてる。」「ほんに大根ですわね。」「又もこれは先生何です。」「と聞く「それは牛蒡です」と、「ふんごんぼか」など云ふ。「いゝえごぼうといふのです」と教へらるゝものもある。そうかと思ふと、「これは先生?」と尋ねる。「それは、おんじんやわ」と教へ居る兒もある。「それは人蔘と云ふのですよ」と直してやつて居る先生もある。「私、あの山に上り度いなあ」と云ふ兒、私此の間、うちから皆と松茸狩りに行つてたくさんとつたわ、あの山は金閣寺山や」と自慢話をし

て居るものもある。「そう／＼あの山は衣笠山といつて、松がたくさん生えてゐるから、松茸が生へて居たてせうね」などと話しながら、四五町の途を來てしまつた。目的の場所は學區内の分力者の別荘で、有志を以て花畑の一隅を借してもらつて、昨年來豆を試植したのである。立派な庭園をなす。今日は豫ねて園兒の來るを待ち受けらるることにて、庭の此處彼處には、うすべりや腰掛を出して下され、お茶の用意など意を用ゐて下さつた。一先づ背のお辨當を下ろさせて暫く休息させる。庭園中は秋の草花が咲き匂ふてゐる。ダリヤ、コスモス其他名も得知らぬ西洋花のかず／＼、赤や白や、むらさきこきませやな。「何ちう花やろ」などと云ひかはして、暫らくはあちこち眺めて居た。「お晝には、まだ一時間ほど間があるから、田甫を散歩して來ませう」と云ひ、打ち連れ立つて出かける。天高く水清らかにすみて、小川の魚も心地よげにおどつてゐる。見渡す限り黄金のむしろ敷きたらん如く、秋風をよぐにつれてサラサラと稻穂の音ものどけさ限りなし。先づ一興なりしは、所々に立てる案山子であつた。新聞紙にて丸く

顔をこしらへて、子供の樂書きの様な顔付きを描きであり、其の様がおかしく、皆一度に大笑す。それからお米に就いて話す。「これがお茶です、ね、皆さんよく知つてゐるでせう、そら皆さんのお遊戯にするお百姓さんのまね、ね、(土川先生作リズム的)向ふに刈つて柯に掛けてあるのがあつてせう、鎌でこうして切つて、日に干して、乾いたのを稻扱で扱き落してそれどうするのです?、そう／＼こうしてね、それを此度は白で引いてあの皮をはいで中から白いお米が出るのです、ね、ですから充分力が入るでせう、それから、彼の黒い方がお餅にするので黄なのがごはんにするのですよ、」など説明する中に一人二人一寸稻穂をとつて來て「先生これ」と持つて來るので大事件のやうに、不可なることを訓誡すれば得心して、そつと捨て、しまふ。わら天神と云ふ神社を拜して尙ほも北の方へと行く。途々野菊やコンペイト花などを摘む。兒は彼の先きの山へ上らうと希望する者多く、「兎に角く麓まで行つて見ませう」とて歩を早めて進む。五六町も來たかと思ふのに、中々其所迄に行きつげざるため、つひに中止して、其の更りに、金閣寺へ行く事に一決す。此所は金閣寺裏手になる

ので細い山道である道程も分らぬけれども、たかをくくつて進んで行く toward 向ふから一人若者が來たので尋ねた。すると「こゝからは中々道も遠くて、其の上山道でとても子供さんの足では行けません」との事それで皆あきらめて此の次に行くことを約して引き返すことにした。唱歌しながら別荘へと歸り着いた。すると、校長も來て居られてニコ／＼と待ち受けられた。「實は、さきに來て、皆さんが居ないから金閣寺へでも行かれたのだと思つてお向ひに行つたけれども一向見えなかつたが何處へ行つてらしたの」との御尋ねに前のお話をして笑ふ。

丁度時分時であつたから、廣い美しい座敷へ案内せられて其所でお辨當を食べることにした。向ひ合ひの二行に列んで、母様の御心づくしのお辨當を開いて、「まあがりなさい」「頂きます」の挨拶のもとに箸をとり上げてさも／＼お甘しそうに食べる様がいぢらしかつた。お茶は食後に與へることに習慣してあるから、誰一人お茶を要求する者はない。保姆も共に食し終る。後には折箱も竹の皮も一まとめに成して、飯粒一つも目につかぬも心うれしき一つであつた。食後お菓子などを食べて可なりお茶が賣れた、

暫く休憩して目的の豆の種を蒔かせた。四間の長方形にこしらへた畑を、長く二列に兒數程の凹をつけて置き、幼兒にはそれ／＼豆を分配しやる。そら豆は二粒づつ、豌豆は五粒づつ、それに各々の名を書いた立札を持たせ、向ひ合せに列ばせて、穴へと蒔かせ其の上に摺り糠でおほはせ、土をきせて、立札を立てさせ終る。何時豆の木が生えますの、と尋ねる兒もある。「そうね大方三十程寝ると芽が出ますから、其時又見に來ませう楽しみですね、今暫らく遊びませうといつて、鬼ごつこ、かくれんぼをなし、池の鯉に駄をやつたりなどしてあかず遊んだ。二時半に電車に乗る筈なればと、二時を合圖に列を整へて當莊主に御禮の挨拶すませで、歸途に就く。無事歸園することが出來た。しほれかゝつた花束を大事そうにお土産にと持つてゐる兒もあつた。さよなら御機嫌良の挨拶に別れたのは正に三時であつた。其の日の徒歩せしは約往復で三十町、野外散歩せしものが約十町であつた。其の翌日兒の所感を尋ねたるに、

最もおもしろかつたのは花摘み、案山子、うれしかつた事はお辨當を食べる事、豆を植えるのがうれしかつたと云ひし者一人尙ほ其の日歸宅後晝寝せしもの七八名なりしと。

幼兒教育と繪畫

●大會に於ける研究發表の概要

度島三原女師 米山えん

一 はしがき

幼兒の、エネルギーは、些々たる刺激に會つても發露して停する處は知らぬ。而して、このエネルギーを身體的方面に使用することは、幼兒教育に於て、最も重要な事である。茫茫として極る處なき蒼穹の下で、活々とした自然物により、自由な天地に歌ひ舞ひ、跳ね、踊る、是實に幼兒天眞の發露であつて宇宙靈智の、幼兒に附與した特權である。我々は此處に教育の着手點を求め、最れが現正補導によつて、智能啓發、徳性涵養の要諦とせねばならぬ、然し更に一步退てこれを考察するに、彼等の方を、身體的方面のみに活かして置て、これが一種の習慣性となつたならば、如何、と云ふ事に想到する。こゝに於て、精神的方面にもエネルギーの發達を計り、身體、精神兩方面の、併行的發達が計りたいものである。こ

の意味からして、幼兒期に於ける繪畫も亦刺激の一分子として、必要な次第である。然してこの期に於けるお伽噺と同地步を占むべきものであることを信ずる。かゝる見地よりしてこの案を作製した譯である。

二 繪畫の階段的發達

吾々の繪畫に於ける發達を考へて見ると、次の三項に分つことが出来る

1 錯畫時代

子供は生れながらに筋肉力を持つて居る。然し調整的運動は出來ぬ。凡てに對して制御力がないから始め二三本の線は多少意味のあるものであつても、いつしか繪畫として無意味のものとなつてしまふ。然るに仔細にこれを觀察すると、其の間自我の内容を窺知することが出来る。然して幼兒自身に於ては是れによつて喜悅し満足して居る。

2 想像畫時代

一點一角が意味のあるもので多少外廓とか、形體とかに注意を向けて來た時代である。そして幾分繪畫的のものである。更に、是れを嚴密に云へば、表

意的のものである。意志の發表思想發表である。色彩にしても稍寫實的になつて來て居る。

3 説明畫及藝術畫時代

イ 説明畫 目的其のものを出來る限り明瞭にし、其のもの、特性を表はすことに苦心し、その圖畫を見たのみで明瞭になる、そして誰にでも分る様に描くことである。

ロ 藝術的畫 美そのものを目的として存在して居るものである。即ち藝術としての表現が主眼である。つまり詩に類するものである。考へさせるものがある。吾々の美の感じを口てあらはす方面と筋肉てあらはす方面とある。その筋肉によつて表はされたものである。これは最高の美の鑑賞賞翫によつて出來るものである。

三 幼兒の圖畫

1 幼兒の筋肉活動

幼兒には筋肉活動程大切なものはない。この筋肉によつて考へ、筋肉によつて印象を明瞭にして行く。筋肉は凡ての活動の原動力である。然して幼兒の

エネルギーは、主として初めは基本的筋肉の方に注がれ、發達するにつれて附屬的細筋の方に及ぶものである。故に幼兒に作業を課するに當りては、先づ基本筋肉の陶冶に充分力を注ぎ、然る後に附屬的筋肉に及ぶ様にせねばならぬ。然して幼兒の筋肉活動は或程度迄に獨立的自動的に活動するものであるが故に、思ふままに精巧に動がず、勝手氣儘な運動をなす、故に、筋肉が精神の示す處に従はぬ場合が多いけれども、次第に發達するにつれて、自發的筋肉活動が次第に觀念に徒屬する様になり、意志通りの運動作用が行はれるのである。

2 幼兒の美的鑑賞

幼兒は餘りに美といふ方面に對しては注意を拂はぬ、自分の興味性に合致したもので、實用に叶ふものであれば、多少無細工でも複雑でも意とせぬものである。實に野蠻人の美に對するそれと同一であると云つてもよからふ。

然し六七歳兒になると、稍々美的鑑賞又は萌芽を表はすものである。靜かに繪畫に對して眺め入るとか、其の他の藝術品に對しても、多少感情を引くらしいけれども、この美に對する感想とは趣を異にし

て居る點があると思ふ。

3 描出力

幼兒は四歳位な時は、物體の形本觀念をはつきりと知覺することは出來ぬ。出來たにしてもこれを描出する爲の適應運動を筋肉がしてくれぬ。只一般の線を描出する位なことで、複雑なる或る形體を形成する要素たる特殊の線を作ることが出來ぬ。

然しながら五歳位になると、適當に心像を再現する様な動的作用を始めて來る。然して眼と手とが共同的活動を始めて來た事が分る。それは、線の形體に注意を向け、自分で描いて見ようと努力する様である。但しこれは一般的のものに對してである。これが六歳位になつて來ると稍々進歩して來て、形體の主なる特質に注意し、空間的關係線の彎曲の度合比較的高さ大さ等大略ながら注意を向ける様である。そしてこれに適應する様な調整的筋肉活動を起し努力して描出する。

四 幼兒圖畫の目的

1 美の享樂

美と云ふ事は、暫時なりとも人をして、他の凡て

のものから連絡を忘れしむる力のある場合を云ふのである、美の享樂とは、美そのものを總てのものから引はなして、原因結果の關係等とは全く離れて、他の何物も心の中に現はれ來らぬ様にし、單にそのものだけを心に映じて見ねばならぬ。そうすれば、その外に他のものの這入つて來る餘地はない。この目的が達せられたら、明に其の結果は、即ちそのものに取つては、それは總ての物を離れたる、絶縁の状態であるし、夫れを見る人からいふと、その物の中に全く安住する境涯である。そして、これがやがてその物に對する充分なる満足を感じずる事である。

人類の美を好むと云ふ事は本能である。藝術的鑑賞力もこの本能によつてある、縱令須臾なりとも凡ての繁雜の羈絆を脱する様に、幼兒の時代から修練發達を遂げさせる事は必須な事である。

若し幼兒の時から物の眞の意味を味ふ事を知らずたゞそれを原因に對する結果としてのみ見る様な者は、長じて後、實際上の事柄以外に深き興味を引くものがなく、唯一の完全なる満足と與ふる慰安を缺くのである。

自然を見、繪畫を味ふ時、吾々は、幼兒と共に解

脱絶縁の境に立つの感があるのである。

2 想像力の表現

幼兒の想像は、現實を超越した所謂空想の場面の廣がりである。中には之に現實を加へて、空想と實現との混同想像を以て満足して居る。學者が幼兒と詩人との性情につき同一視し、又天才と幼兒との事につき同一典型の存する事を視て居るのは、つまり成人の考へつかぬ奇抜な空想を描き得るからである。實に藝術は、一種の想像作用の表現であると云つてよい。それで、幼兒の圖畫は特に想像力の表現する處があらしめたい。

幼兒をして想像の世界へ、空想の天國へ旅行させるかのふ伽嘶と同一地步に置かしめたいと思ふのもこの想像界空想世界の人たらしめ筋肉の活動する限り思想の續く限り想像の極地に幼兒を逐ひやりたいとしてそこに眞美の世界を建設させたいのである。

3 興味性

興味性は人生生活上必須なものである。興味の熱烈さ加減で能、不能の分岐點となる。元來幼兒は凡てのものに對して熾烈な興味性をもつて居る。然してこの興味の迸出する處、活動の停止する事を知ら

ぬのである。彼等は疲勞することも知らぬ、即ち興味によつて活動することは幼兒のエネルギーを浪費する事が極めて僅少なるが故である。

4 筋肉練習

個人の發達の自然的順序は、先づ活動的方面から始めて、次第に精神的方面に及ぼすものである。この活動的方面、即ち筋肉活動及經驗は、明瞭正確なる觀念を得る爲めに必要なもので、幼兒の想像思想も實にこの筋肉感から分離することが出来ぬ。然して幼兒は生れながらにして筋肉力は持て居るのであるが、この筋肉力を制御し調整する運動が出来ぬのである。然してこの制御力調整力の運動は、始め大筋に始まつて次第に精細なる筋肉に及んで行くのであるから、始め粗笨迅速から精美緻密なものに至るのである。然してこの精密複雑な調整運動を支配する中樞は高等なものであり、又極めて弱いものであるが故に、幼兒に餘りの細密なる筋肉練習をなさしむると云ふ事は、大に考慮すべきであるが然し筋肉感といふものは老年まで發達するもので年少の時は發達迅速で、老年になるに従つて緩慢遲鈍になるものであるから、先づ幼兒の發達に従つて顧慮すべき

である。

故に左の如き筋肉練習によつて、圖畫的活動をな
さしむる様考案した。

イ 斜線練習を主としたる保育材料

ロ 横線練習を主としたる保育材料

ハ 垂直線練習を主としたる保育材料

ニ 圓練習を主としたる保育材料

尤もこの練習は筋肉の運動に外ならぬので出来る
限り大きな運動をなさしむる事に努めしめ手先のみ
でなく、腕全部の運動たることに注意すべきである

五 保育材料

以上述べ來つた處の見地よりして、保育材料を選
擇したのである。

1 描出法の種類

イ 隨意畫

(一) 幼兒の自由發表による描出法であつて
幼稚園に於ける圖畫的活動中の眞髓であ
る。

(二) お伽噺及其の他の説語によりて描出せ
しむるものである。

ロ 塗繪(シルウエルト)

(一) 臨廓を與へて斜線、横線、垂直線、圓の
塗方練習をなさしむるのである。

(二) 繪型により、自身臨廓を取り隨意に描
出する方法

(三) 謄寫繪雜誌及其他の繪本より隨意選擇
により出さしめ、日本紙及ドーサ紙等に
より手本の上にあて謄寫せしむ。

ハ 寫生畫

實物觀察により幼兒の感じの發表をなさし
む。

ニ 繪畫の觀察

藝術的繪畫 說明的繪畫の觀察

2 色の種類

色については幼兒が直觀する自然の色について知
らしむべきであつて彼等の經驗及興味に基いて名稱
も授くべきである。幼兒は先づ刺戟の強い色を好む
故に始め三原色を使用せしむる赤い花、黄色花、青
い海等この三原色より發出する色にて、更に所々三
色が造られるのであるから次には紫、緑、昏赭、等
の次に幼兒の要求に應じて知らしむべきである。新

に色を造らしむるといふ上に於ては水彩繪具が實に理想的である。

3 畫紙と繪具

甲 用紙

(一)畫紙 出來得る限り大きいものたること、十分に筋肉運動をなさしむる爲には其の場面を廣くして置くこと。

西洋紙、ケントン紙、色木炭紙、ドーサ紙等

餘り價の高きものは考へものである』只彩色を施したる爲めに、用紙により不快な色となることあり、これに注意せねばならぬ。

畫帳として綴りたるは、整理上よろし、然し畫

紙としては運動を制限される恐がある。

(二)板及石盤。黑板及石盤共便利である。

乙 繪畫

(一)毛モチヨーク、六色チヨーク(君が代、フラワ
ーペンシル等)

これは價も安く着色もよいが、脆い事があるのが缺點である。

君が代の方には、往々着色不鮮明なものがある。フラハペンシルは、かき上げた時、パステル

畫の感じがあつて、美的であるがもうい事一等である。

其他クレオン色鉛筆等あるから研究して後使用すべきである。

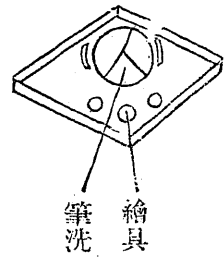
(二)色白墨

大きな運動を大紙へなさしむる時、最もよろし但粉末の飛散に注意すべきである。(板畫の際等最も注意を要す、使用の前極く僅少の混度を與へると、飛散をふせぎ着色をよくする。これと書いた繪に、ニスの稀薄液を噴霧器で散布すると大變よろし。

(三)水彩繪具

繪具は色の練習に最も好都合である、しかも着物にも便利で、美の感興を充分に與へる。最も理想的のものであるが、幼兒のものとしては取扱に不便であるのが遺憾とする點である。適當な設備さえすれば使用が出來ぬといふ事はない繪具箱を造らしめて、これを出せば水もこぼれず、繪具散亂せずに描出の出來る様考へてやることが必要である。

先づ次の様なものも可なり役に立つと思ふ。



(四) 石筆

單調でしかも硬筆であるから、圖畫としての價値は餘り多くない。どちらかといへば、實用向といふ方である。之によつては色彩の觀念は興へる事が出来ぬ。つまり只臨廓線に過ぎぬ。

(五) 黒鉛筆

黒鉛筆は、四號を使用させること。幼兒に一本は與へて置きたいものである。木炭なら申分はない。

附ゴム消は決して幼兒に使用させぬこと。折角の大膽な製作もゴム消を使用する癖をつけるとひねくれたものにしてしまふ。

六 保姆と藝術

保姆は凡てに對して圓滿な感情の持ち主でなくて

はいけない。又、快濶で興味性に富んで潑瀾たる生氣あるものでなくてはならぬ。特に、藝術的素質を有して居ると云ふ事は、凡てを美化させ活動させる源泉であると思ふ。もし保姆にして、趣味性なく、美に對しても殺風景何等の感興を起さず、冷淡に見のがす様な人では、とても一種の藝術的作品にも等しい幼兒の教育をすることは出来ぬ。殊に幼兒の美的心情を養ふ事が出来ぬ。幼兒の美に對する心と、保姆の美に對する心とは、非常に異つて居るかも知れぬ。幼兒は道草の小さい花に共鳴して、限らない美の享樂をして居るかもしれぬ、然るに保姆は、かゝる状態に對して何等共鳴するところもなく、此の尊き幼兒の萌芽をふみにじる様な事があつたなら、幼兒の美に對する感應はどんなであらう。これと同じく、幼兒の描いた作品に對して、充分に美なる點を養つてやる溫情がなかつたなら、實に幼兒は可愛相なものである。然し、やたらに保姆自身の美的感情が幼兒の夫れと懸隔せるものを、殊更に押縮めて、幼兒的になれと云ふのではない。若しかゝる事になつたなら、それこそ幼稚園の保姆は段々原始的になつてしまふと云つてもよからう。こゝに云ふのは、

保姆は保姆として自身の趣味に生きなくてはならぬ
そして大いに美感も味ひ、繪も描く人とならなくてはならぬ。只幼兒の出品に出會した時、輕々の内に見逃さず、同情を以て輔導啓發する保姆とならなくてはならぬ、つまり藝術に對して、同情し了解し、それを鑑賞し得る、人たらねばならぬと云ふのである。

○編輯室より

○我が保育界にとつて、誠に多忙多事であつた今年も終らうとしてゐます。幼兒教育と改題してから、本誌も滿一年を過ぎました。今後、益々この時代の潮流に乗りだして行かねばならない本誌の責任もなか／＼大きい事と思ひます、切に皆様方の御援助を願ひます。今や世界を壓倒しつゝある種々の思想はやがて、靜かな若共の樂園にも波打つて來るのではありますまいか、

○倉橋先生もいよ／＼年内に外遊なさる事になりました。今迄恰ど先生の手一つにはぐくまれて來た様な我が幼兒教育界は、先生の御留守と云ふ事に、何となく乳離れの子供の不安さがあります。し

かし先生は、この有史以來、否、空前絶後とも云ふべきこの時代に廣く世界を遊歴なされると云ふ事は誠に喜ばしい事で、一人、先生のみならず、我々、日頃先生の薫陶に預りし人々の、誠におさへきれない誇りであります、先生は、どんな、大きな抱負をもつて世界をお廻りになる事でせう。教育問題、社會問題、國際問題あらゆる世界の思潮は、今やあの勢力を無限な先生を迎えやうとして待ち構へて居ります。

二三年の後、先生は、それこそ、一層元氣旺盛で澤山の御土産を持つて、また私達の中に歸つて下さいます。その時に我が國が、我が教育界が、先生に負ふ所はどんなに大きいでせう。

幸に日頃御強壯な先生の愈々の御健勝を祈り上げます。

○「今年の夏に」の續稿は何分、倉橋先生の御留學が俄かに、日がせまつたために、非常に御忙しく、引續き御執筆を煩す事が出来ませんでした。あの稿に關係深き土地の方々並に讀者諸君の御諒察を願つて置きます。尙「保育の手段」としてのお話の稿は、何れ近々に、日本幼稚園協會のお話研究部から、多年研鑽した幼兒向きのお話集が出版されますが、その本に一層、詳しくお書き下さる筈ですから本誌に續稿掲載を見合せる事と致しました。これまた御了承を願います。

○本誌の編輯兼發行人が、本月から變りました。従つて本誌編輯に關する御寄稿は、今後「東京市日本橋區岩附町一番地小高艶子」方へ御送り下さる様に願ひます。

大會所感

出席者の一人

十月十七日第二回全國幼稚園大會は開かれた、役員諸氏の至れり盡せる御準備と會場の立派なることに敬服して先づ議席に着いた、熱心なる八百有餘の會員が、議長其他の役員諸氏の指揮の下に、明快なる頭を働かせ、多大の抱負を以て議事に演説に耳を傾けて居る、豫め通知を受けたる諮問案、討議題等に於てやゝ意外の觀なきに非ざりしも、それ〴〵に經過や結論を豫期して出席した自分には、討論の幕の開かるゝに當つて意外に思はぬわけには居られなかつた小なる問題と思つて居た事が案外大問題となつたり重大視して居た事が手もなく決議されたり、當然否決されるものと信じて居た問題が大多數を以て可決されたり、案外の事が多かつたので、自分の頭を疑つたり、眼界のあまりに狭かつたのに呆れた。

かくて三日間會場の空氣は全く小なる一園ののどかなる空氣とは異にした、私から見ればどうしても一般の空氣、輿論は、早教育に醉はされて居るやう

に思はれる。幼稚園の仕事は、「知的教育を主とする所なり」との前提の下に議論をして居らるゝとしか思はれぬ、個人についてお話をしてみると、今頃知的方面に重きを置いて保育して居る實際家はない、幼稚園時期に於て最も純粹に教養さるべき情意陶冶の重任に心を止めず、徒らに形にあらはれ易き知的方面の研究にのみ齟齬して居るやうな實際家は決してない。然るに其會合なる此大會の空氣が幼児教育の眞髓に觸れず、情意陶冶の重大なる事を叫ぶ聲を聞かないのは何と考へても不思議である、冷靜に其原因を考へて見るに、出席會員の殆んど三分の一が有力なる男子の園長の方にして其大多數は小學校長の方である、従つて發言せらるゝも夫等の方に多く有力なる意見を發表せらるゝも亦それ等の方に多い故に場内の空氣をつくられたるはむしろ實際家に非ずして、管理者又は設立者である、管理者設立者は之より、幼稚園の目的内容を熟知せられ、確固たる定見より割出して議論されるには相違ないのであるが日常接近して居らるゝのが多く小學校の兒童である處から、幼兒も亦兒童を小さくしたに過ぎないといふ考が重きをなして居らるゝ爲てはあるまいか、少

くとも現今に於ては幼稚園と小學校とは全然趣を異にして居る、かくあるのが當然の事と思はれる。

而して日々遭遇する末梢の問題は、實際家が適切に感ずる事が多いのであるから、それ等は實際家同志が相談する事として、それより前にもつとつと根本に觸れた問題について、相談がしていたゞき度いと痛切に感ぜざるを得ない、或は根本の問題は既に解決せられ、今や末梢の問題のみが残つて居るといふ状態にあるならば、私一人が時勢に遅れて居ると見るのが至當である、けれども近々十有餘の幼稚園を參觀して、いよゝ幼稚園なるものゝ、形式に於ても内容に於ても、一貫したるものなく平差萬別其園其人の人格の表はれてある事の感じを深くした今日より考へると、根本の問題はまだゝ解決されて居らぬと見て宜しいと思ふ。

又一方より考へて見ればかゝる空氣をつくられたるは、獨り管理者其人ばかりではない、實際家も又空氣に酔ひ疑を挿む餘地を持たぬばかりでなく、より以上に熱心なる方を見うけたのは何の爲であらう、幼稚園がたゞ幼兒の遊び場である外に、保姆養成の仕事兼ねて居る所、又は敎生を指導すべき任にあ

る師範學校附屬の幼稚園等では、何か形に表はれたものを以て指導の方針を示す必要がある、それなのに幼稚園に於ける根本の問題は、形に表はし難いものである所から勢ひ手取早く形に表はれる研究をなし結論を出さんとあせる傾がある様に思はれる、一方幼兒のみを相手として居らるゝ専門家にあつては對稱物が常にゝ手答のない幼兒であるために、旺盛なる力を表はすにはあまりに物足らず、其力を研究に注ぐ様になる事は當然の事である、研究するといふ事は極めて結構な事で一寸も怠つてならぬ事である、がともすると研究に酔はされて幼兒本位の研究をなさず、學者のなすべき研究に熱注して、幼兒が方便に使はるゝ弊に陥つて居る事にさへ氣付かぬに至るは、又陥り易い弱點である、此傾向が大會の空氣の一部をなしたやうに思はれてならぬ、實際幼兒ばかりを相手にして生活して行く内には、物足らぬといふ感じは免れぬ、幼兒敎育ほど結果の表はれにくい仕事はないのであるから、自分の實力を試すやうな研究がして見たくなるのである、其全力をも少し他の方面に有益に活用する事は出来ないであらうか、も少し社會的に活動させる道はないであらうか

たとへ其活動がたゞ反應うすき幼兒の上にはばかり働
くにしても、其人の内に何物か確固たる信念があつ
たならば、誠を以てぶつかつたならば、全力を傾注
して不満を感じる事がないであらうと思ふ、實際家
は結果を見んとあせるよりは、一人々々の幼兒に對

したる時殊に比較的幼稚なる幼兒に接したる時の心
の状態を反省し、末梢の研究をなす前に根本の研究
に力をつくして全人格を携て幼兒に接したい、と感
じたまゝを書きつけた次第である。

大阪市立兒童相談所を訪ふ(二)

一 會 員

前に申上りました個性診査票は、次に掲げる様なも
のであります。甲は醫學的の相談の部にて使用する
もの、乙は教育部で使用するもの、尙、家事的相談

部のものは、目下研究中とのこと、表の中で主訴と
あるのは、之は醫學上の言葉で、子供の側からの陳
述のことだそです。

No.

個性調査票(乙)

大正 年 月 日 影

(第一面)

姓名		士平	男女	滿	年	月	日生	出生地	
父ノ姓名		職	業					現住所	
母ノ姓名			業					現住所	
同胞		人	本人ノ第	子	現	狀			
陳述者氏名								診査者姓名	
主訴									
遺傳									
父									
父系	祖	父							
	祖	母							
	母								
母系	祖	父							
	祖	母							
同胞									
備考									
往歴									
受胎時	胎時	父母ノ飲酒	疾病	年	父	精神	生活		
胎生時	胎生時	身體狀況	鉅子	齡	母	狀況	狀況	生活	生活
出生時	出生時	早熱	子	頭	傷	假	死	祭	養
備考									

乳兒期	哺	乳	母	乳	母	牛乳其他	斷	乳
	步	行	齒	牙	言	語		
備	眼	耳	疾	家庭ノ狀況	外	傷		
	考							
幼時期	遊	遊	種	種	習	習	言	語
	祭	養	好	家庭ノ狀況				
備	嗜	疾						
	考							
幼	遊	情	思	力	意	志		
	學	業	習	慣	趣	味		
期	言	語	習	癖	睡	眼		
	娛	樂	性	慾	幼	稚	閱	經
備	疾	病	外	傷				
	考							
青	身	發	精	神	發	育		
	性	慾	微	毒	酒	慢	性	病
備	急	性	病					
	考							
特								
徵								

(第二面)

現 在 認 候

營養狀態	身體	身長	握力	
腺狀腺	體	重	指力	
睡	胸	圍	活肺筋	
音	胸	型	力量	
步	胸前後經			
四肢ノ異常	胸左右經			
毛髮質	頭直經			
	頭橫經			
	頭圍			
	足	痕		
眼	視	力	左	右
耳	聽	力	左	右
呼吸系統	味吸			咽候
	肺臟			
	肋膜			
循環系統	脈數	性質等		血壓
	心臟			
	血管			
消化系統	齒牙	齶齒	體溫	
	胃		欠齒	
			肝臟	
			其他	

身體的方面

神 經 系 統 生 秘 系 尿 便 血	中樞	末梢	皮膚反射	其他	診 查 者				
	腎臟	膀胱							
	生殖器								
精 神 的 方 面	姿態	精力	額注	察意	診查決定	體格	體力	談話	銘斷
	筆記	臆算	知	識				記	
	計		觀	念				判	
	感	精	念	聯				強	
	社	會	志	合				迫	
	關	係						觀	
								念	
備	考								
月	日	處	置	及	經	過			

No.

個性調查票(乙)

大正 年 月 日 調

(第一面)

姓名				男	年	月	日	出生地			
父ノ姓名				女	滿	宗	教	現住所			
母ノ姓名				職	業	宗	教	現住所			
同胞	人			本人ノ第	子	現	狀				
陳述者氏名				調查者姓名							
系圖	父	系	母	系	母	系	母	系	母	系	
家紋	系	系	系	系	系	系	系	系	系	系	
著	患	既	往	現	在	病	的	遺	傳		
過去ノ生活狀態 (身體的精神的)								主 察			
幼	兒	期									
乳	兒	期									
學	齡	期									
其	後										

主 訴 ニ 關 シ テ 陳 述

保護者					
兒童					
學校側					
家 族			陳 述		
性 質	癖	習	性 質	癖	習
長	短	長	長	短	長
好	嫌	好	嫌	嫌	嫌
動	作	動	動	作	作
創	作	創	創	作	作
勘	忘	勘	忘	忘	忘
備 考					

(第二面)

智力検査	學業調査	
	相談所調査	學校側、回答
年齢	智能年齢	學業程度
備考	處置及經過	
月 日		

乳児には別に乳児診査表が出来て居ります。診察の結果、その児に適當な牛乳のうすめ方を教示して與へます。又學校へ對する成績の問合せも親展書として記入郵送し得るものが考案されて居りますが、これに紹介致す事は紙面の都合上許されませんので今回

はこれ位にとどめて置きます。豊富なまた重大な使命を有たるこの相談所の刻々の發展を祈つて已みません。

フリドリツヒ
へツベル

わが幼時 (四)

艶子 譯

八

私は、スザンナの學校に七歳まで居つた。此處で讀む事は一通り學んだが、書く事は、私がまだ幼ないからと云ふ事で、教へて貰えなかつた、もつとも、書き方はスザンナ先生が教へ得る最後のものであつたので、先生は用心深く之を「取置き」にしてゐた。しかし、必要缺くべからざる記憶練習は、既に私にも課せられた、何故と云へば、茶目どもが、あの男女の區別のない上衣から、ズボンに、又入門書から問答書に出世するや否や、十戒とか基督の信仰箇條とかを暗記しなければならなかつたから。この問答書と云ふのは、かの偉大なる改革者マルティン、ルツテルが、既に三百年もまへに（註ルツテルは十六世紀の人、ヘッセルは十九世紀の人）行爲の規則書として新教の教會のために作つて置いたものである。學校では唯、暗記する以上には出ないのであつて、

難しい教義も説明もなく、解説もなく、書物からすぐには、また發達しない子供の腦理へ散歩して行くのであつた。そこで子供は勿論之を不思議に、またある所は實に奇怪突飛な姿に、自分で翻譯する。しかし、この姿も、子供の頭には少しも害にはならなかつた。かへつて、子供を健全に刺激して、一つの豫覺に充ちた（何か知らんが神が有りがたいと云つた様な）考を湧き起こさせたのである。何故害にならないかと云へば、たとひ子供が原罪（基督教にては人は生れながらに罪ありと云ふ）とか、死とか、惡魔とか云ふ事を聞いて、かゝる意味深重なる比喩から、よし一つの概念を得やうと、又は、奇怪な觀念を之に結びつけ様と、そんな事はどうでもよい。一體斯様な比喩が、既に人間生涯の大問題になつてゐるのであるから。しかし、また、これから發育しやうとする人間が、其の人生の入口に於て、萬物を左右する所の至高（神）の存在すると云ふ事を、注意される事になる、私は疑ふ、果してこれと同じ目的があつたらうか、早くから子供を四則と云ふ神祕境（子供にはたしかに加減乗除は初め神祕的に思はれるであらう）に、或はインツプの寓話の悟りに、導き入れる事に由

つて、達せられるかどうかを。

不思議な事には、私の想像では、ルツテルが、あのモイゼやイエスキリストと、直接にならんで出て来た。(同時代の様に)、しかし、これは疑ひもなく斯う云ふ理由でそうなつたのであらう。それは、一つにはあの雷の様に響いて居る、「之は何ですか」と云ふ言葉が、エホバの神の尊嚴なる簡潔な言葉のすぐ後に響いて来る。(註、此處は、ルーテルのつくつた問答書の事を云つてゐるので、問答書では、先づ聖句が書いてあつて、其の直ぐ下の行に「是れは何か」と問ふてある、先生も生徒も一緒に讀むしてゐる子供には、實にこの聲は雷の様に恐しく響くわけである。)と云ふ事と、また、今一つには、あの頑丈な顔をしたルツテルは、この顔では、肉體的の事を云ひそうなのにそれが、かう云ふ精神的の事を云ふのであるから、彼は、先づその肥えた肉と戦つて、勝たねばならなかつた、さぞ苦しかつたらうと思はれる、その顔が、問答書の表紙に、墨くろくろくと印刷してあつたから。

然し私の知る所では、これは私の、かの本當の角とか、惡魔の爪とか、さては死の鎌(死の神が命の草を刈り取ると云ふ)などに對する信仰と同様、少

しも害にはならなかつた。必要が生ずるや否や、私は救世主(イエスキリスト)と、改革者(ルーテル)とを、區別する様になつた。

兎に角、私がスザンナの學校で克ち得た僅か斗りの所得も大に私は家では偉くなつたと思はれた。親分(左官屋)オールは、眞の基督者の信ずべき事を、自分よりも遙かによく知つてゐるとて、非常に感心した。母は、私が初めてランブの傍で、晩の祈りの文句をつかへる事なく、吃る事さへもなく、讀んで聞かせた時は、殆んど涙を流さん斗りに感じた。否、母は、自分の利益になつたと思つたので、それ以來永久に、講師の役に囑託し、私はそれを、また、永い間、熱心に、且、自負心をもつて務めた。

私の七歳の終り頃に、ホルンシュタインの學制改革が起り、隨つてまた私の村の學制にも、大改革、否、完全なる改新が起つた。この時まで、國家は初等教育には全く又、それ以上の教育にも先づ殆ど干渉はしなかつた。両親は、子供を自分の好む學校へ入れる事が出来た。そして、かの代用學校は、純然たる私立の造營物で、これは寺の僧侶さへ、顧みない位であつた。また、かゝる學校は、往々にして誠

に奇妙なキツカケで成立するものである。

例へば私の居つた學校の校長スザンナ先生の如きは、ある嵐吹く秋の暮れつ方に、一文なして、知己もなく、木製の靴を履いて、ウエツセルブルーレンにやつて來た。やつとの事で或る情深い牧師の未亡人の許に、一夜の宿りを得る事が出來たが、この未亡人は、このさすらひの女が、讀み書きが出來、また字も相當に上手であると云ふ事を認め、そこで、卽座にその土地に、否その夫人の家に留つて、授業をする様にと定めてしまつた。此頃は少くとも、貧乏人の部分では、生憎先生がなくて子供は教育上の孤兒であつた。と云ふのは、これ迄の先生、永い間その驥が嚴格だと云ふ事で賞讃されてゐたその先生がある生意氣な女の兒が何か惡戯をしたのを罰するとして、裸にして熱いストーブの上に載せた、恐らくは、かうして一層賞讃を博さうと思つたので。しかし、さすがに、これは、體刑を絶體に崇拜する人達にも、餘りひどい事と思はれた。恰もスザンナはこの時この廣い世界に何處へ倚つてよいやら、何を始めてよいやら、解らなかつた場合として、今迄の馴れた手仕事を喜んで、勿論少しは不安もないではなかつたが、彼女の所謂「頭の仕事」に換へた。そして、この機械的の仕事は、完全に、また短い期間に成功したのであつた。

一層大きくなつた男の子、女の子達のためには、勿論陰氣ではあるが尋常小學校も、高等小學校もある、これらは、國家から一種の監督を受けて居り、必要があれば、官憲の力で、生徒を募集して補充する事も出來た。

かゝる學校も、名前だけは、實に今でも、尙、私には誠に大袈裟な、何だか謎の様に響きまた當局者はその名を一種の誇として居るのであるにも拘らず何を教へるかと云へば、實は其場しのぎの實科を響ぐに過ぎなかつた。この學校で、私の母方の叔父を、あの怪我にも謙遜など決してしない校長が、叔父は自分と同じ丈け物識りだから、最早やこれ以上學ぶ必要はなからうと云ふ譯で、學校から退げて寄こした。成程私の叔父は、偉い手書きで、年賀狀など書く時には、かの出版界の元祖なる、フストヤ、シエルフエルが、その新版の書物を飾る時にする様に。鬚や渦卷を澤山につけた。しかし、たゞの一つも文法に合つた文章は書けなかつたのであつたのに。

此の争はれぬ大なる缺點、この改善を要する状態は、遂に終りを告げねばならなかつた。國民は搖籃時代から教育されねばならぬ、迷信は全く根絶させねばならぬ、と云ふ事になつた。然らば、果して此の改良の際に、特に思考すべき事を根本的に熟考したかどうか、この問題は此處には云ひますまい。改善したとは云ふが、實際の有様はと云へば、その教養の概念は、極めて相對的のものであつた。丁度いろ／＼の瓶から酒をチビリ／＼飲むと、嘔吐を催す様な惡酔ひがおけると同じ様に、深みのない百科全書的の智識は、それが畢竟、幅ばかり廣く教授されるので、全く厭ふべき傲慢、即ち如何なる權威に對しても頭を下げないと云ふ様な心を養ふ、しかも、もし深い所に觸れば、喧かましく浮び上つて來る文句上の矛盾とか反體とか云ふものは、すぐ解けるものを、その深さまで探究する事をしないのであつたが、兎に角當局者は巧みな手段を取つた。即ち一方に師範學校をつくり、他方には初等學校を設立した。師範學校に於て、煮沸して出來た所謂ゆる啓蒙主義と云ふ瀟過液は、先づ、空虚な先生の頭に漏斗の口から注ぎこまれ、これが全くそのまゝにまた全國に

注ぎ出されるのである。この結果はと云へば、やゝ迷信的な時代に交つて、非常な理智的な時代が續く例へば、孫は、夜、空に現はれる流星を、あれは單に可燃性の瓦斯體であると云ふ事を知つてゐるのに祖父は、あれは惡魔が光を放つ所の錢袋をもつて、何處かの煙突から這入らうとするのだ、と信ずる様な驚くべき事になる。

さりながら、一般的には、よしどう云ふ事情があらうとも、私は、私の確信、即ち、教育の場合には中庸の點を探し中であると云ふ事は非常に困難な事であると云ふ事を繰り返して置く。私には、兎に角この學制改革は大變幸であつた、勿論、私の町のウエツゼルブローレンには、初等學校が設立された。こゝに一人の男の先生を得たが、私はこの先生の名を書きつける度毎に、幾時でも、深い感謝の念が起る。全くこの先生は、その地位の低いにも拘らず、私の發達の上に限りなき影響を及ぼした。この先生は、名をフランツ、クリスチアン、デトレフセンと云つて隣りのアイデルステット町で既にある小さな地位を得て居つたのが、私の町へやつて來たのであつた。

日本幼稚園協會役員

會長

湯原元一

主幹

倉橋惣三

幹事 (イロハ順)

井村くに 池田トヨ(會計)坂内ミツ(庶務)和田實和川くら

土川五郎 奈良山梅 小向きみ 小高つや(編輯)杉本ふみ

評議員 (イロハ順)

乙竹岩造 吉田熊次 田中ふさ 野口幽香 安井哲

横山榮次 藤井利譽 下田次郎 日田權一

地方委員 (イロハ順)

折井彌留枝 大和田りょう 坪内きく 宇式か人 久住モト

坂井ふで 司馬のぶ 望月くに 膳たけ

加盟保育會

- 東京市保育會
- 京都保育會
- 大阪市保育會
- 神戸市保育會
- 静岡縣保育會
- 名古屋保育會
- 香川縣保育會
- 福島縣保育會
- 吉備保育會

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

編輯顧問 高島平三郎先生

幼童雜誌 良友

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べるゝてあらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいてあらうか。

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認許(毎月一日發行)
幼兒教育 第十九卷第十二號 大正八年十二月廿七日納本濟
大正八年十二月一日發行

印刷所 福山印刷製本所

發行所 東京市小石川區 社モドコ 電話 六一八二 六一九二